

# 第1学年 社会科学学習指導案

日時 平成17年11月1日（火）5校時

学級 1年5組（男子19名 女子20名 計39名）

場所 1年5組教室

指導者 教諭 工藤久尚

## 1、単元名 第2編地域の規模に応じた調査 第1章 身近な地域の調査

### 2、単元について

#### （1）教材観

本単元は、中学校学習指導要領、地理的分野の内容(2)ア身近な地域「身近な地域における諸事象を取り上げ、観察や調査などの活動を行い、生徒が生活している土地に対する理解と関心を深めさせるとともに、市町村規模の地域的特色をとらえる視点や方法、地理的なまとめ方や発表の方法の基礎を身に付けさせる。」を受けたものである。

本単元は地域の規模に応じた調査の初めであり、自らの力で地域的特色をとらえさせる調査学習を内容としている。地理的な見方を育成する学習であり、調べ方、学び方の基礎を学ばせることをねらいとしている。

そこで、地域調査学習を内容とし、問題解決的過程である学習の流れを体験させ、調査技能の習得をめざした学習を進めさせるものである。そのことが、本校の研究主題にある「基礎・基本の定着」につながるものと考えられる。

#### （2）生徒の実態

全体として、教師の指導に素直に従い、まじめに取り組む学級である。お互いに高まろうとする雰囲気や形作られてきている学級である。作業的な学習にもよく努力し、授業での発言や発表にも意欲的な生徒が多い。生徒の学習への意欲や学級の雰囲気を大切にしながら指導にあたりたい。

一方、これまでの評価問題の結果や授業での観察から、根拠を明らかにして考えを述べたり、表現する能力は身につけていない生徒が多い。資料活用に関しても、資料を読み取る力や、読み取った事柄から考え、表現する力は、これから身につけていかなければならない部分である。

そこで、地域調査学習の各段階において資料をもとにした学習の時間を意図的に設定すると共に、資料に対する自分の考えを発表させる場面を増やしていきたい。

#### （3）指導観

全体指導だけでは生徒の実態に対応できないため、評価を元にした個別指導の場面を計画的に配置していきたい。

単元を通じて資料活用の指導は、次の点に留意していきたい。①資料を正しく把握させるために、紙板諸、OHP、プリントなど提示方法を工夫する。②資料を確実に読み取らせるために、生徒の発言を取り上げ、活用し、学級全体に理解の幅や広がりをもたせる。③資料の収集、選択、処理、活用及び読解、表現の各項目をしっかりと意識させながら、調査技能の基本をつかませるようにする。

また、指導にあたっては、教科の研究主題である「資料活用能力の育成」のために、調査内容そのものよりも、問題解決的過程である調査の流れをつかませることや基本的調査技能の体験・習得に向けた指導を重点化していきたい。

3、単元の目標および単元の評価計画

第2編 地域の規模に応じた調査 第1章 身近な地域の調査 (配当10時間)							
単元の指導目標及び評価計画							
単元の指導目標	●身近な地域を実地に調査させ、情報収集、課題の発見、予想・仮説の設定、調査活動、検証・まとめなどの問題解決の過程の流れを理解させる。●地図の作成、地形図の読図、統計データの作成・分析、調査結果の表現などの具体的な調査技能の基本を習得させる。●身近な地域を調査する活動を通して、日々の生活領域に関する諸事象に関心を持ち、地域社会の中で生活している事実気づくように指導する。						
	社会的 事象への関 心・意 欲・態	●地図情報から、歴史的な事象、産業、他地域との関係などに関心をもつことができる。●様々な視点からの調査ができるように、計画的にテーマを設定できる。●人、もの、ことなどについてミクロな点まで追いかけて、実地調査をした利点が出るように注意して調べることができる。●読みとったり、発表した地域に関する情報を、生活体験と結びつけることができる。					
	社会的 な思考・ 判断	●地域の特色が表れてくる調査テーマを、意見を出し合いながら、いくつかのテーマに絞っていくことができる。●地図情報、実地調査から得た情報、新旧の比較から得た情報などから、地域の特色を把握することができる。●地域で起こっている様々な問題に関心を示し、その問題に対する自分の判断がもてる。					
	資料活 用の技 能・表現	●地域の地図を、等高線、縮尺、土地利用、地形などに着目しながら読みとり、地域に関する様々な事象に気づくことができる。●調査結果をグラフや地図、スケッチで表現することができる。●土地利用図、分布図、グラフ、統計表などの資料読解の基本を身につけることができる。●地図、グラフ、図表などの様々な表現方法を習得する。●調査の動機と目的、経過と内容、分析と結果が明確にわかるように、まとめが書ける。					
単元の 観点別 評価規 準	社会的 事象に ついて の知識・ 理解	●縮尺、方位、等高線、地図記号などの地図の約束について理解する。●読図、文献調査、聞き取り、観察等の調査方法を実際に体験して、地域調査の基本的方法を理解する。●身近な地域における地形、気候、産業、交通、集落等について、基本的知識を習得する。					
	時間	観点	評価規準	評価場面 (方法)	具体的評価規準		
					A	B	C努力を要する生徒への支援
	3	学習内容	身近な地域の地図を等高線、縮尺、土地利用、地形などに着目しながら読み取り、身近な地域に関する様々な事象に気づく。(身近な地域を見直そう)				
	社会的 事象に ついて の知識・ 理解	縮尺、方位、等高線、地図記号などの地図の約束についておおまかに理解する。	小テストの時(テストの結果、ノート)	縮尺、方位、等高線、地図記号などの地図の約束について正確に理解する。	縮尺、方位、等高線、地図記号などの地図の約束についておおまかに理解する。	小テストの結果について、プリントに記入したアドバイスに基づいて返却の際に指導する。	
	資料活 用の技 能・表現	身近な地域の地図を、等高線、縮尺、土地利用、地形などに着目しながら読みとり、身近な地域に関する事象に気づくことができる。	地図の加工作業の時(観察)	身近な地域の地図を、等高線、縮尺、土地利用、地形などに着目しながら読みとり、具体例を挙げて説明することができる。	身近な地域の地図を、等高線、縮尺、土地利用、地形などに着目しながら読みとり、身近な地域に関する事象に気づくことができる。	作業場面における個別指導により、読図の約束を1つずつ理解させる。	
2	学習内容	学校周辺の散歩をもとに、身近な地域の特色が表れてくる調査テーマを意見を出し合いながら設定できる。(調査テーマを決めて、見通しを立てよう)					
	社会的 な思考・ 判断	身近な地域の特色が表れてくる調査テーマを、みんなの意見を出し合いながら、いくつかのテーマに絞っていくことができる。	意見交換の時(観察)	身近な地域の特色が表れてくる調査テーマを、自分から意見を出しながら、いくつかのテーマに絞っていくことができる。	身近な地域の特色が表れてくる調査テーマを、みんなの意見を出し合いながら、いくつかのテーマに絞っていくことができる。	発表された級友の考えを再確認させ、もう一度考えるようにさせる。	
	社会的 事象への 関心・意 欲・態	様々な視点からの調査ができるように、テーマを設定できる。	設定したテーマ紹介の時(観察)	様々な視点からの調査ができるように、計画的にテーマを設定できる。	様々な視点からの調査ができるように、テーマを設定できる。	地図上の地理的事象を振り返らせ、考えさせると共に級友のテーマを参考に発表する。	

	欲・態度	る。	祭)	マか設定じさる。	じさる。	にするように指導する。
2	学習内容	読図、文献調査、聞き取り、観察等の調査方法を実際に体験して、地域調査の基本的方法を習得する。(いろいろな方法で調査活動をしよう)				
	社会的 事象への関 心・意 欲・態 度	人、もの、ことなどについてミクロな点まで追いかけて、注意して調べることができる。	記録の様子(ノート)	人、もの、ことなどについてミクロな点まで追いかけて、現地調査をした利点が出るように注意して調べることができる。	人、もの、ことなどについてミクロな点まで追いかけて、注意して調べることができる。	調査がスムーズに進むようにその場でのアドバイスを行う。
	資料活 用の技 能・表現	読図、文献調査、聞き取り、観察等の調査方法を実際に体験して、地域調査の基本的方法をおおまかに習得する。	記録の様子(ノート)	読図、文献調査、聞き取り、観察等の調査方法を実際に体験して、地域調査の基本的方法を習得する。	読図、文献調査、聞き取り、観察等の調査方法を実際に体験して、地域調査の基本的方法をおおまかに習得する。	事前学習内容を想起させる指導を行い、調査を完了させる。
1	学習内容	調査の動機と目的、調査経過と内容、分析と調査結果が明確にわかるように、「調査結果のまとめ」の方法を選択することができる。(調査結果をまとめ発表しよう 1)				
本時	資料活 用の技 能・表現	調査内容を表す方法を教科書、地図帳や資料集から選択することができる。	表現方法を選択する時(発言、ノート)	調査内容を表す方法を教科書、地図帳や資料集から選択し、完成図をイメージすることができる。	調査内容を表す方法を教科書、地図帳や資料集から選択することができる。	一番表したいことは何かを確認させ、それを表現する方法としてどれが適切なのかをもう一度考えさせる。
2	学習内容	調査の動機と目的、調査経過と内容、分析と調査結果が明確にわかるように、「調査結果のまとめ」が書ける。(調査結果をまとめ発表しよう 2)				
	社会的 事象への関 心・意 欲・態 度	人、もの、ことなどについてミクロな点まで追いかけて、調査結果をまとめようとする。	まとめる時(ノート)	人、もの、ことなどについてミクロな点まで追いかけて、現地調査をした利点が出るように注意してまとめようとする。	人、もの、ことなどについてミクロな点まで追いかけて、調査結果をまとめようとする。	まとめができるようにアドバイスする。
	資料活 用の技 能・表現	選択した方法(土地利用図、分布図、棒グラフ・円グラフ、○●暦、統計表)について調査技能の基本を身につける。	発表する時(観察、ノート)	選択した方法(土地利用図、分布図、棒グラフ・円グラフ、○●暦、統計表)調査技能の基本を確実に身につける。	選択した方法(土地利用図、分布図、棒グラフ・円グラフ、○●暦、統計表)について調査技能の基本を身につける。	教師が発表内容についての質問するなどして、生徒が選択した表現方法のメリットを再確認させる。

#### 4、本時の指導

##### (1) 研究主題との関わり

- ア 基礎・基本の重点  
…調査結果をどのようにまとめれば良いのかを考え、表現方法を適切に選ぶことができる。
- イ 課題解決を図るための指導過程の工夫  
…表現方法を選択させるために、例について考える場面を設定する。
- ウ 評価を生かした指導の工夫  
…選べない生徒に対しては、表現したい事柄の確認などを通じた支援を行う。
- エ 定着を図る工夫  
…まとめる内容にあった方法であるかどうかを発表を通じて考えさせる。

##### (2) 展開

段階	学習過程	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価
導入 15分	復習 課題の設定	1、これまでの学習の流れを振り返り、前時までの復習をする。 2、まとめの条件を確認する。 調査内容を表す方法としてどのようなものがあるかを考える。 3、本時の課題を把握する	掲示により学習の流れを確認する。 様々なまとめ方を発表させ、選択例として黒板に表示していく。 長所を考えさせる。	
		調査内容をまとめるためにどの表し方があっているだろうか。		
展開 28分	課題の追究 課題の解決	4、例についてどのように表すとよいかを考える。その理由も考える。 ① 数量など数値を調べたケース ② 分布状況などを調べたケース ③ 文章文献などを調べたケース 5、個人で考えた事柄をもとにグループ毎に調査内容の表し方を話し合う。 手持ちの資料の中で、どの表現に近いのかをさがす。 選んだ結果と理由を発表する。 6、発表を聞いて思ったことをまとめる。	発言から同様の意見や違う角度からの考えを引き出していきたい。 まとめ方の例を提示する。 理由も言えるようにさせる。 学習シートに記入させる。 学習シートに記入させる。	自らの課題について調査結果を表す方法を教科書、地図帳や資料集から選択することができる。(資料活用の技能・表現) <観察、記入状況>
終末 7分	まとめ	7、類似問題を解く。 8、次時の予告をする。	学習シートに記入させる。 単元学習の流れを再確認し、発表の準備を進める意欲づけを図る。	一般的な課題について調査結果を表す方法を教科書、地図帳や資料集から選択することができる。(資料活用の技能・表現) <観察、記入状況>